

保健師教育内容の変遷と主な改正事項

昭和46年

基本的な考え方

<科目>	(講義時間)
公衆衛生看護論	180
保健医療の社会科学	45
保健統計	45
疫学	60
健康管理論	135
社会福祉・ 社会保障制度論	30
公衆衛生行政	30
合計525時間	
<実習>	(実習時間)
公衆衛生看護論	180
<教育時間合計>	705時間

保健師として地域社会の住民の健康を守り向上させるため地域の人々が自らの健康を守るよう導き、また、家族が健康上の問題を解決できるよう援助を行い、かつ、地域の実情に合わせて保健師活動を効果的に行うことができる人材を育成しなければならない。

また、保健師活動は、保健所市町村等が主な場であるが、事業所、学校、運動指導の場等新しい需要が増えている。このため、これらの分野にも対応できる基礎的な学習を行うものとする。

さらに、今後の多様化する社会ヘルスニーズにも対応でき、しかもプライマリヘルスケアの発展を促すことができる保健師教育を目指すものとする。

改正の概要

- 1) 時間数は705時間を690時間とした。
- 2) 科目間の内容の重複を見直すと共に、科目を精選し公衆衛生看護学等科目数を7科目から4科目とした。
- 3) 「疫学」は知識を確実に習得させ実地に応用できるよう保健統計学を含めた。
- 4) 「社会福祉、社会保障制度論」と「公衆衛生行政」は総合的な保健福祉対策の推進の考え方を確実に習得するため統合し「保健福祉行政論」とした。
- 5) 「保健医療の社会学」「保健統計」は、他の科目に統合し各々の教育内容に含めることとした。
- 6) 実習は、公衆衛生看護学に位置付け、実践活動の場において行う臨地での実習時間のみで構成することとした。

平成元年

基本的な考え方

<科目>	(講義時間)
公衆衛生看護学	375
疫学	60
健康管理論	60
保健福祉行政論	60
合計555時間	
<実習>	(実習時間)
公衆衛生看護学	135
<教育時間合計>	690時間

- 1) 人々の健康並びに疾病・障害の予防、養生、回復及び改善の過程を社会的条件の中でとらえることができる能力を養うとともに、これらの人々を援助する能力を養う。
- 2) 地域の人々が自らの健康状態を認識し健康の保持増進を図るため健康学習や自主・自助グループ活動を実施し、また社会資源を活用できるよう支援する能力を養う。
- 3) 地域に顕在している健康問題を把握するとともに、潜在している健康問題を予測し、それらの問題を組織的に解決する能力を養う。
- 4) 保健・医療・福祉行政の基礎的知識を踏まえ、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスを評価し調整する能力を養う。

改正の概要

- 1) 「公衆衛生看護学」は市町村及び保健所を中心とした保健予防活動に焦点をおいた公衆衛生看護と在宅療養者に焦点を当てた継続看護とを含む「地域看護学」とする。
- 2) 「健康管理論」は「地域看護学」の活動論の一部を成すものと考え、統合する。
- 3) 「疫学」は「疫学・保健統計」(情報処理を含む)とし、単位数を増加し内容の充実強化を図る。
- 4) 単位制の導入については21単位(675時間)以上を修得することとする。

平成8年

<教育内容>	(単位)
地域看護学	12単位
疫学・保健統計	4単位
保健福祉行政論	2単位
合計18単位	
<教育内容>	(単位)
地域看護学実習	3単位
(135時間)※	
<教育時間合計>	21単位
(675時間)※	

※ 平成8年 時間については、看護師等養成所の運営に関する指導要領による

保健師養成所で実際に実施している教育内容別単位数（時間数）

【保健師課程のみの養成所 教育期間1年】18校

	地域看護学						疫学・保健統計		保健福祉行政論		臨地実習		合計	
	地域看護学概論		地域看護活動論		小計						地域看護学実習			
	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
	(3単位)		(9単位)		(12単位)		(4単位)		(2単位)		(3単位)		21単位	675時間以上
平均値	3.8	75	18.6	467.8	22.4	542.8	4.4	93.1	2.8	69.2	4.7	212.7	34.4	917.8
最大値	6	135	33	730	39	820	6	135	6	210	7	318	57	1420
最小値	3	45	9	270	12	360	4	60	2	45	3	135	21	675

【保健師・助産師合同カリキュラム：保健師 教育期間6ヶ月】2校

	地域看護学						疫学・保健統計		保健福祉行政論		臨地実習		合計	
	地域看護学概論		地域看護活動論		小計						地域看護学実習			
	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
	(3単位)		(9単位)		(12単位)		(4単位)		(2単位)		(3単位)		21単位	675時間以上
平均値	3.5	90	10.5	300	14	390	4	120	2.5	60	3.5	157.5	24	727.5
最大値	4	90	11	330	14	420	4	120	3	60	4	180	24	780
最小値	3	90	10	270	14	360	4	120	2	60	3	135	24	675

※ 平成17年度保健師助産師看護師法施行令第14条の規定に基づく報告 看護課調べ

大学における地域看護学の教育内容
(行政・公衆衛生看護、在宅看護、学校看護、産業看護) 別単位数

(n=78)

	必修	選択	計	自由
行政・公衆衛生看護 (平均単位数)	8.3単位	2.5単位	8.7単位	2.5単位
なし・無回答(割合)	4校(5.1%)	57校(73.1%)	3校(3.8%)	76校(97.4%)
最大単位数	17単位	6単位	17単位	4単位
最小単位数	2単位	1単位	2単位	1単位
在宅看護含む(割合)	15校(19.2%)			2校(2.6%)
学校看護含む(割合)	24校(30.8%)			1校(1.3%)
産業看護含む(割合)	22校(28.2%)			1校(1.3%)
在宅看護(平均単位数)	3.3単位	2.4単位	3.6単位	2.5単位
なし・無回答(割合)	19校(24.4%)	62校(79.5%)	14校(17.9%)	76校(97.4%)
最大単位数	8単位	5単位	9単位	4単位
最小単位数	1単位	1単位	1単位	1単位
学校看護含む(割合)	2校(2.6%)			
産業看護含む(割合)	2校(2.6%)			
学校看護(平均単位数)	1.4単位	2.2単位	1.8単位	2.0単位
なし・無回答(割合)	57校(73.1%)	59校(75.6%)	42校(53.8%)	77校(98.7%)
最大単位数	3単位	5単位	6単位	2単位
最小単位数	1単位	1単位	0.5単位	
産業看護含む(割合)	2校(2.6%)			
産業看護(平均単位数)	1.4単位	1.7単位	1.8単位	1.0単位
なし・無回答(割合)	58校(74.4%)	60校(76.9%)	40校(51.3%)	77校(98.7%)
最大単位数	3単位	5単位	7単位	1単位
最小単位数	0.5単位	1単位	0.5単位	
なし・無回答(割合)	2校(2.6%)	41校(52.6%)	2校(2.6%)	74校(94.9%)
合計(平均単位数)	11.3単位	4.2単位	13.4単位	2.0単位
最大単位数	22単位	20単位	25単位	4単位
最小単位数	1単位	1単位	3単位	1単位

出典：日本看護系大学協議会広報・出版委員会編 看護学教育Ⅱ,日本看護協会出版会,2005

大学における地域看護学実習の現状

保健所実習日数

実習日数	大学数	割合 (%)
2~4日	14	21.9
2~5日	1	1.6
5日	15	23.4
5~7日	2	3.1
7~8日	4	6.3
9~10日	1	1.6
10日	11	17.2
12~14日	4	6.3
15日	3	4.7
2週間のうち数日	1	1.6
「保健所と市町村」か政令市で10日	1	1.6
「保健所と市町村」か指定都市で11日	1	1.6
「保健所と市町村」か政令市で15日	4	6.3
保健所、市町村、在宅介護支援センターで合わせて10日	1	1.6
保健所、市町村、訪問看護を合わせて15日	1	1.6
合計	64	100

市町村実習日数

実習日数	大学数	割合 (%)
2~4日	7	12.3
5日	7	12.3
5~8日	4	7.0
7、8日	7	12.3
10日	13	22.8
10、5~14日	5	8.8
15日	4	7.0
2週間のうち保健所実習数日を除いた日	1	1.8
「保健所と市町村」か政令市で10日	1	1.8
「保健所と市町村」か指定都市で11日	1	1.8
「保健所と市町村」か政令市で15日	4	7.0
保健所、市町村、在宅介護支援センターで合わせて10日	1	1.8
保健所、市町村、訪問看護を合わせて15日	1	1.8
不明	1	1.8
合計	57	100

保健師学生の実習指導に関するあり方調査研究事業

分担事業者 平澤敏子

目的 効果的な保健師学生の実地実習を実施するために、大学側・地、域側の実習体制、実地実習に関する課題を明らかにすること

調査対象 大 学 : 全国の保健師養成を実施している看護系大学で平成 16 年 3 月に卒業生を輩出した大学 82 校

地 域 : 調査対象となった大学の学生を受け入れている保健所・市町村の実習担当者

都道府県 : 大学が設置されている都道府県の実習担当者 44 都道府県

調査方法 大 学 : 地域看護実習の責任教員へ自記式調査票を郵送

地 域 : 大学を通じて自記式調査票を郵送

都道府県 : メールによるアンケート調査

回収状況 大 学 : 61 校 (回収率 77.4%)

地 域 : 保健所 289 施設 (回答率 83%)、市町村 483 施設 (回答率 61.1%)

都道府県 : 42 都道府県 (回収率 95.5%)

結果

【大学調査】

「保健所・市町村実習概況」

学校数	保健所実習 N=61 (%)	市町村実習 N=61 (%)	
1 施設当たり 平均学生数	3人以下	9 (14.8)	24 (39.3)
	4~5人	23 (37.7)	24 (39.3)
	6~10人	16 (26.2)	4 (6.6)
	11人以上	9 (14.8)	3 (4.9)
	回答なし	4 (6.6)	6 (9.8)
	平均	9.3人	5.7人
実習中の指導 体制	巡回	46 (75.4)	45 (73.8)
	常駐	8 (13.1)	9 (14.8)
	回答なし	7 (11.5)	7 (11.5)

【地域調査】

「地域の実習指導体制」

(複数回答)

	地域全体	保健所	市町村	
総数	772 (%)	289 (%)	483 (%)	
受け入れ学校数	1校	449 (58.2)	125 (43.3)	324 (67.1)
	2校	225 (29.1)	119 (41.2)	106 (21.9)
	3校以上	67 (8.7)	39 (13.5)	28 (5.8)
	回答なし	31 (4.0)	6 (2.1)	25 (5.2)
同時期の他の 専攻の受け入れ	あり	131 (17.0)	68 (23.5)	63 (13.0)
	なし	633 (82.0)	219 (75.8)	414 (85.7)
	回答なし	8 (1.0)	2 (0.7)	6 (1.2)
実習指導規定	あり	149 (19.3)	93 (33.0)	34 (7.2)
	なし	623 (82.0)	189 (67.0)	434 (92.7)
実習指導業務 事務分掌明記	あり	430 (55.7)	243 (84.1)	187 (38.7)
	なし	321 (41.6)	42 (14.5)	94 (57.8)
	回答なし	21 (2.7)	4 (1.4)	17 (3.5)
実習指導業務 予算	あり	86 (11.1)	65 (22.5)	21 (4.3)
	なし	678 (87.8)	220 (76.1)	458 (94.8)
	回答なし	8 (1.0)	4 (1.4)	4 (0.8)
指導体制	1対1体制	89 (11.5)	32 (11.1)	57 (11.2)
	事業担当制	244 (31.6)	74 (25.6)	170 (35.2)
	グループ担当制	205 (26.6)	67 (23.2)	38 (28.6)
	その他	234 (30.3)	116 (40.1)	118 (24.4)

【地域調査】

「卒業時習得すべき実践能力」

(複数回答)

実践能力	到達度	大学 N=61 (%)	地域 N=772 (%)
個人の健康問題アセスメントと援助計画立案	一人でできる	40 (65.6)	446 (57.8)
	指導下でできる	18 (29.5)	282 (36.5)
	理解している	3 (4.9)	32 (4.1)
家族の健康問題アセスメントと援助計画立案	一人でできる	32 (52.5)	345 (44.7)
	指導下でできる	26 (42.6)	377 (48.8)
	理解している	3 (4.9)	43 (5.6)
地域の健康問題アセスメントと援助計画立案	一人でできる	9 (14.8)	96 (12.4)
	指導下でできる	38 (62.3)	506 (65.5)
	理解している	14 (23.0)	161 (20.9)
保健事業の計画立案	一人でできる	5 (8.2)	70 (9.1)
	指導下でできる	26 (42.6)	415 (53.8)
	理解している	30 (49.2)	280 (36.3)
保健事業評価方法	一人でできる	2 (3.3)	58 (7.5)
	指導下でできる	27 (44.3)	408 (52.8)
	理解している	32 (52.5)	299 (38.7)
家庭訪問の技術	一人でできる	17 (27.9)	367 (47.5)
	指導下でできる	37 (60.7)	358 (46.4)
	理解している	7 (11.5)	40 (5.2)
面接相談の技術	一人でできる	16 (26.2)	377 (48.8)
	指導下でできる	38 (62.3)	351 (45.5)
	理解している	7 (11.5)	37 (4.8)
健康教育の技術	一人でできる	15 (24.6)	279 (36.1)
	指導下でできる	41 (67.2)	446 (57.8)
	理解している	5 (8.2)	40 (5.2)
グループ支援技術	一人でできる	2 (3.3)	104 (13.5)
	指導下でできる	30 (49.2)	499 (64.6)
	理解している	29 (47.5)	158 (20.5)
他職種及び住民との協働・連携	一人でできる	4 (6.6)	42 (5.4)
	指導下でできる	20 (32.8)	428 (55.4)
	理解している	37 (60.7)	292 (37.8)

【大学調査】

「実習で体験させたい項目のうち実際に行っている項目」

(複数回答)

実習で体験させたい項目	実際に行っている学校数(%)
家庭訪問	45 (73.8)
地区診断	42 (68.9)
健康教育	36 (59.0)
保健所と市町村の保健師の役割の違いと連携	20 (32.8)
社会資源の活用	11 (18.0)
健康相談	9 (14.8)
関係機関・関係職種との連携(個人)	7 (11.5)
健康診断事業	6 (9.8)
グループ支援	5 (8.2)
地域住民との協働	4 (6.6)
保健福祉計画策定	4 (6.6)
関係機関・関係職種との連携(会議)	3 (4.9)
調査研究活動	1 (1.6)